

無料 (ご自由にお持ち帰り下さい)

編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121

ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

2017年 夏号

Vol.27

ほっとタイムズ

病院長メッセージ

「若い母親ががんで亡くなることーHPVワクチンと関連してー」

病気を知ろうQ&A 口腔ケアと健康寿命



平成29年7月29日開催「キッズくらぶ イン ホスビタル'17」の様子

新診療科長等のご紹介 3

ドクター紹介 5

内分泌代謝・糖尿病内科 特任医長 志鎌 明人

内分泌代謝・糖尿病内科 医 員 大山真理子

各科各部紹介 5

第13回 看護教育支援室

トピックス 6～7

キッズくらぶインホスビタル'17レポート

看護週間 看護の心をみんなの心に

PCUで七夕会が開かれました

第94回 七夕・ふれあいコンサート開催

お知らせ 8

—第10回—

「若い母親ががんで亡くなること —HPVワクチンと関連して—」

茨城県立中央病院
茨城県地域がんセンター

よし かわ ひろ ゆき
病院長 吉川 裕之



歌舞伎役者市川海老蔵さんの妻であり、元ニュースキャスターの小林麻央さんが2人の小さなお子さんを残して、乳がんのために34歳という若さで旅立たれました。がんで亡くなることは常に悲しいことではありますが、若いお母さんの死は特に悲しく感じます。私は、婦人科がんを専門としていた関係で、数十人もの30歳代前半で小さなお子さんのいるがん患者さんの死に立ち会ってきました。それは「子宮頸がん」が若い世代で急増しているためです。女性特有のがんとしては、「子宮頸がん」は乳がんに次いで罹患率が高く、特に20～30代のがんで第1位となっています。そのため欧米では子宮頸がんを『mother killer』と呼んでいます。

世間ではがん検診だけで子宮頸がんを激減させることができるという誤解が多く見受けられます。確かにそれは45歳以上に限って言えば正しいことといえます。がん検診受診率が80%以上を誇るオランダなどでも子宮頸がんは40歳未満では全く減少しておらず、むしろ35～39歳が罹患のピークになっています。日本でもがん検診受診率は40%ではありますが、子宮頸がんの罹患のピークは同様に35～44歳であり、30～34歳で罹患する方も少なくありません。胃がん検診でスキルス癌が減少しないのと同様に子宮頸がんもがんの成長が早い40歳未満の方の罹患率は減少せずに増加しているのです。そ

のため海外では子宮頸がん予防のため、HPVワクチン接種が推奨されています。

この若い女性の子宮頸がんを制圧するために世界で普及しているのがHPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチンです。日本では公費によるHPVワクチン接種プログラムが2010年12月に開始されました。しかし、2013年6月にHPVワクチンは推奨中止となり、すでに4年が経過しました。結果として、1994年から1999年に出生した女性で50～75%に達した接種率も2001年以降に出生した女性では急減し、1%以下にまで減少してしまいました。世界的には日本で副反応とされる症状とHPVワクチンとの因果関係は科学的にも否定されており、多くの国で安全なワクチンとして高率な接種が続いています。しかしながら、日本ではHPVワクチン接種の推奨が中止されているのです。子宮頸がんによって若い命が奪われることがないように、またがん予防の機会そのものが失われることがないように多くの学術団体はHPVワクチン接種推奨の再開を要望しています。

子宮頸がんは女性の人生に大きく影響を与えます。若い世代の女性の方々、また若い世代の女性を持つご家族の方々はHPVワクチンやがん検診のことなど、子宮頸がん予防についてぜひ話し合ってみて下さい。正しい知識を得て、最大限にできる予防をしてほしいと望んでいます。

新診療科長等のご紹介



循環器外科部長
えの もと よし はる
榎本 佳治

これまで13年間いた筑波大学を離れ、この4月に赴任して参りました。出身は栃木県の小山市で、友部は約30年前大学受験の際に水戸線乗り継いだ思い出の駅、何か縁を感じます。

循環器外科（心臓血管外科）は執刀医ひとりでは決して成り立たないので、チームの力が成績を左右すると言っても過言ではありません。県中はポテンシャルが高く、すでにいいチームができつつあります。筑波大学で全国に誇る成績を残してきましたが、これからは県中が名実ともに県の中央という意気込みでやっていきたいと思っています。



産婦人科部長
うるし がわ くに
漆川 邦

今年の4月から当院産婦人科勤務となりました。3月までは水戸済生会総合病院総合母子周産期センターで、ハイリスクのお母さんや赤ちゃんに関わる医療に10年間携わってきました。県立中央病院は地域がんセンターとして、産婦人科では県央県北地域の婦人科癌治療の中核を担っており、癌の治療を中心に行っています。そのなかで、2年前に産科部門が再開され、少しずつお産が増えてきている状況です。4月からこのチームの一員に加わりました。総合周産期センターとの連携をより深めながら、地域の皆さんが安心して分娩できる場所をチームのみんなで作っていききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



精神科部長
さ と う しん じ
佐藤 晋爾

平成29年4月1日づけで常勤精神科医として着任しました佐藤と申します。前任地の関係でいまだ医局会で皆様にご挨拶できずにおります。もしも病棟で見かけない怪しい人物がいたら、それはきっと私です。よろしくお願いいたします。

これまで、主に民間総合病院精神科で勤務しておりました。当院では、すぐ満杯になって機能不全になる精神科外來は行わず、病棟でのコンサルテーション・リエゾンと緩和ケアに特化した形で勤務させていただくことになりました。どうか気軽にご相談くださいませ。



歯科口腔外科部長
おお き こう すけ
大木 宏介

平成29年4月から歯科口腔外科が開設され、それと同時に赴任しました大木宏介と申します。主に『口腔外科』を専門とした診療科で、院内の医科との連携、近隣歯科との連携を中心に診療を進めてまいります。特に当院(医科)で『がん治療』を受けていただく患者様のお口の機能管理を行い、計画された『がん治療』がお口のトラブルで滞ることのないようサポートすることを重視しています。

歯科医師1人だけの小さな診療室ですが、アットホームな雰囲気の皆様をお迎えしますので、宜しく願い致します。



総看護師長
はし もと いずみ
橋本 泉

総務及び医療相談室を担当しております。平成27年度から2年間、人事交流の目的で笠間市立病院に派遣させていただきました。30床の小規模病院ですが、訪問診療・訪問看護・訪問リハに力をいれている地域に根ざした病院です。今回、在宅での療養生活に関わることで改めて急性期の看護を振り返る機会となりました。この人事交流が地域連携の強化に繋がるよう努めてまいります。また、当院の看護局は550名を超える大所帯です。各々の個性を尊重し、働きやすい病院にしていけるよう努力してまいります。



臨床検査技術科長兼
臨床工学技術科長
たか き たけし
高木 英

平成13年に転勤してから16年ぶりに戻って来しました。前は平成4年から9年間に在籍し、主に病理検査を担当していました。また前任地の衛生研究所では、食品や感染症などの行政検査、中でも病原性大腸菌や結核菌の分子疫学検査を専門とし、直近の3年間は感染症情報センターとして公衆衛生の向上を目指してきました。県中に戻り管理業務のほかにも行政と病院の橋渡しを目指すとともに、臨床検査データや臨床工学技術が診断治療にますます貢献出来るような組織作りをしたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

口腔ケアと健康寿命

Q：近頃お口(歯)の病気が全身の健康にも影響があると聞きました。どんな影響がありますか？

A：お口の病気として代表的なものに歯周炎がありますが、数々の研究により全身の健康にも影響を及ぼすことがわかってきました。なかでも糖尿病と歯周炎との関わりは重要で、糖尿病により歯周炎が進行するだけでなく、歯周炎が糖尿病を悪化させるといった悪循環に陥ります。また、歯周炎と心臓病・肺炎・低体重児出産・骨粗しょう症などとの関連も指摘されています。

Q：またお口(歯)が健康でなくなると(病気になると)どんな病気にかかりやすくなりますか？

A：歯周炎などにより歯周組織を介して細菌が血流に乗って全身へ運ばれると、様々な病気を発症します。代表的なものとして感染性心内膜炎があります。心臓の弁に異常があると細菌が弁にくっつきやすくなり、そこで細菌が増殖することがあります。生じた細菌塊や血栓が分離してしまうと血管を詰まらせ、脳梗塞などを引き起こすこともあります。

Q：お口の(歯)病気にならないための予防法はありますか？

A：歯周炎は多くの場合、症状なく静かに進行します。予防するためには、お口も定期的なチェックが必要です。また、むし歯も痛みが落ち着くとつい放置しがちですが、症状が軽いうちに治療を行ったほうが簡単な処置で済むことが多いです。

Q：お口の(歯)の健康を保つためにどのようなことを心がければいいですか？

A：最も大切なことは、自分で行う歯磨き（セルフケア）です。毎日行うことはもちろん大事ですが、正しい方法で行うことがより重要となります。歯科医院でブラッシング指導をうけ、正しい歯磨きでお口の健康を保ちましょう。



Q：お口(歯)の病気【歯周炎など】にかかってしまった場合の治療法を教えてください。

A：歯周炎の治療は、主に『汚れを落とすことにより進行を食い止めること』と『歯磨き指導』です。歯科では専用の機械を使って歯石などの歯の汚れを除去しますが、最も大事なものは毎日の歯磨きです。むし歯や歯周炎の進行を予防するために、定期的な歯科受診が大切です。



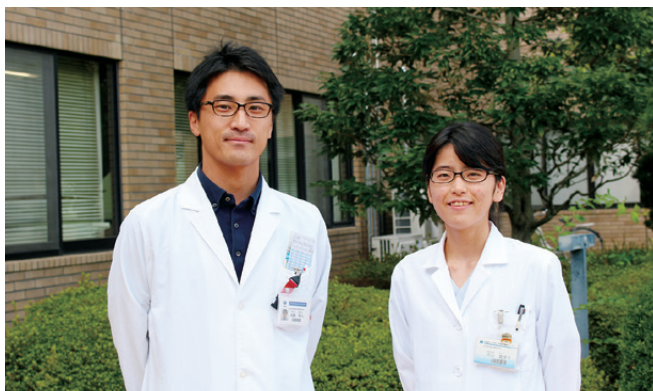
歯科口腔外科部長
おおき こうすけ
大木 宏介 先生
が答えました



ひと言

いわゆる『歯医者さん』にいくのは誰しも怖くて嫌なものです。しかし、歯を失って初めてその大切さがわかって、永久歯は二度と生えてはきません。しっかり咬んで食べられることは、健康寿命にもつながります。かかりつけ歯科医をもち、予防に心がけて口を健康に保ちましょう。

ドクター紹介



内分泌代謝・糖尿病内科

特任医長 ^{し かま} 志鎌 ^{あき と} 明人

医 員 ^{おお やま ま り こ} 大山真理子

左：志鎌医師 右：大山医師

今年度より勤務しています。当科では、糖尿病・脂質異常症などの代謝疾患や、甲状腺・下垂体・副腎などの異常による内分泌疾患を診療しています。現在、わが国での糖尿病患者さんは約950万人、予備軍も含めると2050万人と推定されています。当院では糖尿病患者さんやご家族が糖尿病に対する理解を深めて頂く事を目的に「糖尿病教育入院」を実施しています。また当院は「都道府県がん診療連携拠点病院」であり、癌を合併した糖尿病患者さんが、手術治療や抗がん剤治療をスムーズに受けられるよう、地域の医療機関と連携し、血糖コントロールのサポートをさせて頂いています。糖尿病を始めとした「生活習慣病」の治療には、薬物治療のほか、食事療法や運動療法といった、生活習慣全般の改善が欠かせません。

当院では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士などが、それぞれの専門性を生かしてチームとして診療を行えるよう努めてまいります。

各科各部紹介 第13回 看護教育支援室

医療の進歩に伴い、看護師の役割は多様化・複雑化しています。看護教育支援室では、どのような状況においても患者さんに優しく、質の高い看護を実践し、県民の皆様信頼される看護師を育成するための支援を行っています。

例えば、新人～ベテランまでの臨床経験にあわせた研修会や、専門的な知識・技術を学ぶ研修会の企画・運営、そして認定看護師などの資格取得支援、さらに看護研究の学会発表支援も行っています。

また、「将来、看護師になりたい!」という小・中学生、高校生や、「茨城県立中央病院に就職したい!」という看護学生さんへの病院見学会も実施しております。

良い看護をめざして頑張る人を全力で支援する場所が「看護教育支援室」です!!



写真左より角副看護師長、太田副看護師長、荻津看護師長、国谷看護師

キッズくらぶインホスピタル'17開催

2007年から始まったこちらのイベントも11回目を迎え、今回もたくさんの応募の中から抽選で選ばれた小学生の皆さんにご参加いただきました。当日は救急車の救護活動の実演の見学や、BLS（一時救命処置）を学んだり、また研修医の先生たちに患者役になってもらい、実際の診療がどのように行われるか等を体験しました。そして実際の器具を使っの手術体験や腹部超音波検査の体験、採血、注射体験、また実際に患者さまにお出ししている病院食をみんなで検食しました。

医療現場を疑似体験し医療に興味を持ってもらえたら、そして医療を身近に感じてもらうと共に命の大切さを感じてもらえたら、そんな思いをもって企画したこのイベントも大成功のうちに終わることが出来ました。



参加者の声

●病院のいろんなことを楽しく勉強できました。病院が好きになれそうです。●ダヴィンチのシミュレーションが難しかったけど、楽しかった。●電気メスで鶏肉の中からグミを探す手術体験、もう一度やりたい！●将来はお医者さんになってたくさんの患者さんを治したい。●先生やスタッフの方が僕たちの為に色々考えてくれてうれしかった。●注射や超音波、本物を使っの体験、貴重な経験になった。

運営に携わって…

実行委員長 研修医 吉川亜佐子

毎年恒例となったキッズくらぶ イン ホスピタル、今年も県内各所からたくさんの子供たちが参加してくれました。病院の中や外で医療従事者がどのような仕事をしているのかを少しでも知ってもらえたらという願いを込めて企画させて頂きました。BLSの基本事項を学んだり、救急車の試乗をしたり、エコーや電気メス、ダヴィンチなどの器具を使った模擬体験をしたりと盛りだくさんな内容でしたが、どれも真剣に、かつ楽しそうに取り組んでくれて、企画者として大変嬉しく思います。最後に、ご協力くださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。



副実行委員長
研修医
佐藤 悠子

実行委員長
研修医
吉川亜佐子

看護週間

♡看護の心をみんなの心に♡

5月23日～29日の平日5日間、当院1階外来ホールにて認定看護師による個別相談会が行われました。専門的な知識をもつ看護師が日頃の不安や疑問に親切にお答えするとあって、毎年大好評のこの企画。病棟ごとの個性あふれる手作りポスターも見ごたえがあり、今年もたくさんの方にお越しいただきました。



PCUで七夕会が開かれました

7月4日PCUで七夕会が開かれました。入院中の患者さまにも夏の気分を味わっていただこうと普段はユニフォーム姿のスタッフ達も浴衣やハッピーで皆様をおもてなし♪また、ボランティアの方のご協力により、かき氷や綿あめ、ヨーヨー釣りなどもお楽しみいただきました。スタッフによるフルートやウクレレ、縦笛の演奏、そして皆さんにもご参加いた

いて七夕の歌を合唱するなど楽しく過ごすことが出来ました。患者さまのうれしそうな笑顔に私達スタッフもハッピーな気分になりました！



第94回 七夕・ふれあいコンサート開催

7月5日今回で第94回となる、ふれあいコンサートが開催されました。今回はお二人の音楽家の方（濱中明美さん/クラリネット・笹島陽子さん/ピアノ）をお招きし、「恋」や「美女と野獣」などの人気の曲を演奏いただきました。また院内サークル&女声サークル華よりうつくしい歌声を披露していただき、みんなで歌いましょうのコーナーでは参加者の皆さまと声をあわせて合唱いたしました。願い事が書かれた短冊で彩られた笹の葉も飾られ、季節の行事をお楽しみいただきました。皆さまの歌声に乗って願い事が空に届くといいですね！



ご意見箱から

- 車いすの乗降を行う際、雨に濡れないように身障者用駐車場に屋根を付けて欲しい。
- 車いす乗降場所においてご不便をおかけし、申しわけございませんでした。身障者用駐車場の屋根の件は、改修に向け協議を続けております。早い時期に結論を出す予定です。しばらくお待ちくださいませうようお願い申し上げます。貴重なご意見ありがとうございました。

がん患者サロン友部やまびこ 3周年セレモニー

6月5日当院にてがん患者サロン友部やまびこ3周年セレモニーが開催されました。

当院吉川病院長による記念講演やアルペジオの皆さんによるギター演奏やハーモニーアンサンブルによる生演奏、シルバーリハビリ体操指導士会によるリハビリ体操などをお楽しみいただき、ご参加くださった皆さまと3周年記念をお祝いいたしました。



がん患者サロン友部やまびこの会について

がん患者さんやそのご家族など、同じ立場の人たちが集まり、情報交換や交流を図るための会です。毎月のサロンでは自由な交流に加え、治療や患者としての心構えなどに関する勉強会も開催しています。がんのことを自由に話し合ったり、また悩みや不安を分かち合ったりと仲間との交流は励みにもなります。ぜひお気軽にご参加ください。



日時：毎月第1月曜日 13時～15時
場所：茨城県立中央病院内災害医療センター
※参加費無料。ご予約不要。
直接会場へお越しください。
お問合せ：がん相談支援センター
TEL.0296-78-5420

平成29年度友部やまびこ勉強会&行事予定表

平成29年9月4日	分子標的薬とは
10月2日	痛みとその緩和
11月6日	インフルエンザ対策
12月4日	クリスマス会
平成30年1月9日	自由テーマ
2月5日	がん治療と口腔衛生
3月5日	肺がんの治療と予後



非常勤職員の募集

- ・職 種 調剤補助
- ・募集人員 1名
- ・雇用期間 採用から6ヶ月
契約更新有り(条件有り)
更新後の期間満了は平成30年3月31日まで
- ・資 格 特になし
- ・賃 金 日給6,450円(院内保育所利用可)
- ・勤務時間 原則8:30～17:15(週38時間45分勤務)

多くの女性スタッフが活躍中！
仕事と家庭の両立もサポート。

ご連絡先：事務局総務課 鈴木
☎0296-77-1121(内線2741)

- ・職 種 医師事務作業補助者
(特別医療クラーク)
- ・募集人員 5名程度
- ・雇用期間 採用から平成30年3月31日
契約更新有り(条件有り)
- ・業務内容 電子カルテ代行入力、診断書、サマリー等文書作成、各種統計資料整理・作成
- ・必要経験 医事業務の経験等があることが望ましいが、未経験者でも可能
- ・賃 金 時給1,155円、他に賞与有り
(院内保育所利用可)
- ・勤務時間 原則8:30～17:15の間で
1日6～8時間(週29時間勤務)

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>